



点滴療法研究会

年次報告書

2013
Annual report

御挨拶

点滴療法研究会会員と共に歩む2014年



会長 柳澤 厚生
Atsuo Yanagisawa, MD, FJCIT
点滴療法研究会マスターズクラブ会長

会員の皆様、関係各位におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。点滴療法研究会マスターズクラブは設立7年目を迎えました。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。このた

び、研究会の国内外での活動を「点滴療法研究会年次報告書」として、皆様にお届けいたします。2013年は国際オーソモレキュラー医学会と正式に提携、同年10月には公式教育セミナーを東京で開催しました。2012年のメキシコ・オーソモレキュラー医学会、英国環境生物学会に続き、2013年はアルジェリアと台湾のオーソモレキュラー医学会、韓国点滴療法研究会と提携を結び、患者相互受入のための国際ネットワーク整備が進んでいます。国内では海外講師によるセミナーや会員による新しい治療・検査の発信など、素晴らしい進展がありました。2014年は、(1) 栄養療法による被ばく対策の普及、(2) 原発の廃棄の主張、(3) 国民への点滴療法・栄養療法の普及、(4) 国民の健康に寄り添う新しい研究会医師像の確立に努めて参ります。よろしくご指導をお願い申し上げます。

予防医学の充実そして病的老化に歯止めを



事務局長 上符 正志
Masashi Uwabu, MD
銀座上符メディカルクリニック院長

最近、書店に行くともうしても気になって家庭医学コーナーに足が向きます。

アンチエイジング、デトックス、サプリメント、ホルモンバランス、ストレス酸化、腸内環

境、抗酸化食品、長寿遺伝子検査など予防医学に関連する本が次々に刊行され、売れています。さらにいかに病院、医者にかからないうか、薬のお世話にならずに健康維持するかなどの本もベストセラーになっているようです。これは心と体の最高の健康状態を保つための知識を一般の方がいかに必要としているかの裏付けといえるのかもしれませんが。

臨床予防医学の目的はただ寿命を延ばすだけの延命医療ではなく、自分の意志で身体を最後まで上手に使いこなすこと、そのためのお手伝いをするのだと思います。自分の健康は家族の健康と同じです。病気は自分だけの問題ではなく、大切な家族の時間を奪い、老化を加速させます。

点滴療法研究会の大切な役割はより多くの臨床予防医療の専門家を育成し、予防医学の知識をもっと分かりやすく普及させ、積極的に病的老化を防ぐことだと考えています。

国内外で活躍中のマスターズクラブ会員メッセージ

国内

町医者として 癌根治への道を

松山 淳

松寿会 松山医院
群馬統合医療センター
理事長 / 院長



私共では「群馬統合医療センター」を併設し、人気の点滴・注射外来は40-50名 / 日程の利用で一般外来同様賑

わっております。各種免疫細胞療法(ANK, BAK, 5種免疫療法等)も実施しております。最新の癌幹細胞を対象とした「DC アイバック・CSC療法」を手掛け、「CTC検査」とも合わせ、癌根治への道も総合力のある我々町医者が切り開いていけるものと信じて頑張っております。患者様と共にあるのが我々の医療だと思います。

水素点滴に新しい一歩

辻 直樹

辻クリニック院長



柳澤先生との出会いから8年になります。独学の模索で行っていた点滴療法を先生との出会いからエビデンスの域まで高めることができました。

現在では研究会で行う点滴療法に加え、2年前より新たに点滴溶液に分子状水素を容存させて投与する水素療法を行っています。この治療法は、今までの点滴療法に勝るとも劣らない素晴らしい治療になり得ると期待しております。今後は、この水素療法においても、点滴療法研究会と連携を取りながら進めてゆければと考えております。

点滴療法は歯科臨床に パラダイムシフトを起こします

新福 泰弘

インペリオクリニック院長



歯周病にせよエンド病変にせよ、歯周組織内における免疫応答により局所組織破壊が進行するだけでなく、ガンやCHDなどの多様な全身疾患を継発す

ることがわかっています。この炎症反応の鍵となるのは、好中球、ROS、内毒素、炎症性サイトカインなどです。従来の感染制御一辺倒の治療では、効果は限定的です。今後、何れは、歯科においてもIVCや血液オゾン療法等を用いて局所と全身の炎症制御を行う時代がやってくるでしょう。是非、点滴療法研究会からその大きな波を起こしませんか。

ボードメンバー御挨拶

診診連携の推進



阿部 博幸

九段クリニック理事長

点滴療法研究会のメンバーの諸先生方、新年おめでとうございます。第一線で活躍する医家の皆様におきましては、保険診療により慢性化、惰性化している日常診療から脱却したいと考えている方も少なくないでしょう。そのためには、第一に当然ですが自分の得意分野に磨きをかけること。第二に新しい分野を導入すること。第三に患者さまへのサービスの向上などが挙げられます。点滴療法研究会としても会員の皆様への支援となるよう、会員相互の交流・意見交換、診(病)診連携を重要課題として取り組み、実現すべく、皆様と共に歩んで行きたいと考えている所存です。

者さまへのサービスの向上などが挙げられます。点滴療法研究会としても会員の皆様への支援となるよう、会員相互の交流・意見交換、診(病)診連携を重要課題として取り組み、実現すべく、皆様と共に歩んで行きたいと考えている所存です。

医療に新しい風を期待する

水上 治

健康増進クリニック院長



世界的に見て、日本の医師達のみが補完医療に強く反対しているのだが、鳥国の悲しさ、当の医師達が取り残されていることに気づいていない。範とする米国では、補完医療が広がり、ヨーロッパでも尊重されている。アジアはどこでも伝統医療は強く、医療費抑制に明らかに役立っている。

当会は多数の影響力の強い医師を集め、停滞気味の医療に新しい風を吹き込みつつある。更なる発展に大いに期待している。

更なる社会的貢献に期待する



芝田 乃丞

株式会社スピック会長

点滴療法研究会の活動の大きな成果は、腫瘍専門医の独擅場であるガン治療に風穴を開け、異端と言われた自由診療を国民レベルで正統な評価に高めたことです。ガンと診断されたら、まず研究会の医師に相談する時代に変革する時でしょう。点滴療法研究会のネットワークはこの社会的貢献を更に高

めます。さらに、会員医師は国際的リーダーシップを発揮し、国際問題となっている放射能被ばくによる健康障害の解決を、研究会が一丸となって取り組む必要があります。

「日本の将来の安心と安全は医師が創る」、点滴療法研究会の更なる社会的貢献に期待します。

勇敢な日本の友人たちへ

ロナルド・ハニハイキ (アメリカ)

リオルダン・クリニック所長



勇敢で革新的な点滴療法研究会の会員の皆様へ、新年のご挨拶を心から申し上げます。

今や、理想的な栄養と有害トキシンのコントロールによる「健康の創造」が世界的なパラダイムシフトを起こしています。

国民は自然のパワーこそが新しい病気を予防できること、そして安全に古典的な病気を治癒させることを知っています。今こそ、私たちは点滴栄養療法を通じて共に自然のナチュラル・ヒーリングを学び、実践する 때가来ました。共に前進しましょう！

海外

ダイナミックな進化に敬意を表します

トーマス・レヴィ

(アメリカ)

キャピタル統合医療大学元教授
医師・弁護士・作家

点滴療法研究会 (JCIT) の皆様、輝かしい 2014 年をお迎えの事とお慶び申し上げます。JCIT が柳澤会長の強力なリーダーシップにより日

本のみならず世界という枠の中でダイナミックに進化し続けている事に敬意を表します。その進化は伝統的な主流医学にとらわれず、より効果的な治療の選択肢を提供する事でした。私は JCIT 会員が提供するビタミンC点滴や栄養療法により多くの日本国民が恩恵を受ける事を確信しています。2014年3月に4年ぶりにJCITの招きで訪日します。皆様とお話できる事を楽しみにしております。

被ばく予防の周知を

ガート・E・シュートメーカー (オランダ)

前・国際オーソモレキュラー医学会会長



ヨーロッパ(オランダ)において、1980年よりオーソモレキュラー(分子栄養)医学に関わってきた立場から私は点滴療法研究会の素晴らしい活動に触れ、とてもうれしく思

います。日本の研究会の活動は一般国民にオーソモレキュラー療法を広く伝え、それを放射線被ばく予防にまで広げています。被ばく予防については、一般市民、メディア、科学者と政治家に周知させることが重要でしょう。2013年に点滴療法研究会のボードメンバーに就任し、皆様とお近づきになれることをとても光栄に存じます。

病気にさせない医学をより多くの国民に

アイリーン・バーフォード=メイスン (カナダ)

元トロント総合病院コンナッハ頭頸がん研究所部長



2013年10月、私は光栄にも東京で第1回国際オーソモレキュラー医学会公式セミナーの講演に招聘されて日本を訪問することができました。私は東京で多くの点滴療法研究会の会員の皆様にお会いしました。皆様が日本の国民の健康増進のために、日々活動されている姿を拝見し、感動致しました。国際学会として、そして世界的ムーブメントとして、私たちは分子栄養療法がからだに優しく、効果的で、病気にさせない医学として、皆様と共に広めて行けることをうれしく存じます。

2013年10月、私は光栄にも東京で第1回国際オーソモレキュラー医学会公式セミナーの講演に招聘されて日本を訪問することができました。私は東京で多くの点滴療法研究会の会員の皆様にお会いしました。皆様が日本の国民の健康増進のために、日々活動されている姿を拝見し、感動致しました。国際学会として、そして世界的ムーブメントとして、私たちは分子栄養療法がからだに優しく、効果的で、病気にさせない医学として、皆様と共に広めて行けることをうれしく存じます。

国際活動

- 1月 23~29日
【アルジェリア】 アルジェリア・オーソモレキュラー医学会
「高濃度ビタミンC点滴療法についての講演」
- 4月 25日~5月1日
【カナダ】 国際オーソモレキュラー医学会
- 6月 【スウェーデン】 スウェーデン・オーソモレキュラー医学会会長と会食
国際オーソモレキュラー会長として今後の展望について打合
- 7月 13~15日
【台湾】 台湾・オーソモレキュラー医学会との交流
- 9月 【アルジェリア】 会長インタビュー-国営放送で放映

【オランダ】 会長インタビュー
オランダ・オーソモレキュラー医学会で放映

【韓国】 韓国点滴療法研究会会長・副会長らとの打合
今後の両国の提携について会議を開催
- 10月 1~2日
【韓国】 第1回日韓点滴療法会議に出席
- 11月 26~28日
【台湾】 台湾・オーソモレキュラー医学会の劉輝雄会長との会合



1月 アルジェリア



10月 日韓点滴療法会議

TOPICS

アルジェリア・オーソモレキュラー医学会との交流

2013年1月23~29日にアルジェリア・オーソモレキュラー医学会の招きで、柳澤厚生会長が首都アルジェを訪問しました。バグリ会長ら学会の暖かい出迎えを受け、高濃度ビタミンC点滴療法、研究会の被ばく対策について講演。新たに姉妹学会として相互交流を締結しました。



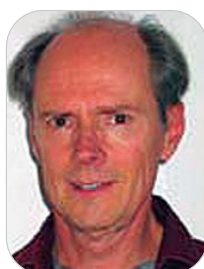
バグリ会長と



講演終了後に

スウェーデン・オーソモレキュラー医学会会長来日

スウェーデン・オーソモレキュラー医学会会長でカロリンスカ研究所のポー・ジョンソン教授ご夫妻が来日しました。精神医学分野の栄養療法を専門とし、国際オーソモレキュラー医学会のキーパーソンです。柳澤会長と会食、今後の相互交流を約束しました。



ポー・ジョンソン先生



ポー・ジョンソン先生ご夫妻と

台湾・オーソモレキュラー医学会との交流

点滴療法研究会会員5名がボードメンバーである台湾・オーソモレキュラー医学会の劉輝雄会長のクリニックを訪問。劉会長との会談で、アジアにオーソモレキュラー医学を広げるために両国のリーダーシップが必要であると意見が一致しました。2014年4月のバンクーバーでの総会で再会を約束しました。



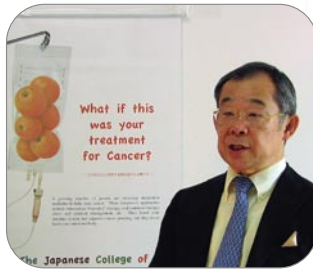
盛大な歓迎を受けました。



劉先生とJCITメンバー

海外での放映：オランダとアルジェリア

10月にオランダ・オーソモレキュラー医学会が20周年を迎えました。創設者のガート・シュートメーカー博士が本会の国際ボードメンバーであり、柳澤会長の祝辞ビデオが学会場で流されました。また、アルジェリア国営放送では、柳澤会長へのビタミンC点滴療法のインタビューが放映されました。



アルジェリア国営放送向けインタビュー



オランダ学会向けインタビュー

韓国点滴療法研究会主要メンバーが来日

8月31日に設立されたばかりの韓国点滴療法研究会の会長、副会長らが来日しました。柳澤会長と会食、相互交流を締結しました。翌9月1日に点滴療法研究会の「技（わざ）セミナー」に出席、韓国側からも質問がでるなど、質の高いセミナーになり、その後の懇親会も盛り上がりしました。



韓国点滴療法研究会メンバーと



ヘヨン先生と

第1回日韓点滴療法会議に出席

韓国点滴療法研究会の主宰で日韓点滴療法会議をソウルで開催、柳澤会長と上符事務局長が出席し、それぞれ高濃度ビタミンC点滴療法とプラセンタ療法の講演を行いました。大学関係者の出席もあり、会議は建設的な議論で白熱、夜も会食にて懇親を図りました。



会議メンバーと全員で



韓国点滴療法研究会会長へ日本からプレゼント

台湾・オーソモレキュラー医学会の劉輝雄会長との会合

柳澤会長は国際オーソモレキュラー医学会会長として台湾・オーソモレキュラー医学会の劉輝雄会長と台北貿易センタービルで会合をもちました。劉会長は、2015年の台湾消化器病学会会長でもあります。会合ではこれからは栄養療法による被ばく対策が重要な活動であることで一致しました。



劉先生ご夫妻と



国内での活動

- 1月 18日 歯科部門発足
20日 ベーシックセミナー
- 2月 24日 スペシャルセミナー
「ハニハイキ先生、ホッファー先生、リオルダン先生から
学ぶ高濃度ビタミンC点滴療法と幹細胞栄養療法」
- 3月 24日 キレーション認定医講習 / 特別セミナー
「一歩先を行く！今すぐ導入したい検査と治療」
- 4月 14日 アドバンスセミナー
21日 歯科医実技講習会
- 5月 19日 ベーシックセミナー in 福岡
- 6月 28日~30日 抗加齢医学会出展
ランチョンセミナーにて講演
- 7月 28日 特別セミナー
「点滴療法研究会が考えるアンチエイジング」
- 8月 4日 歯科医実技講習会
- 9月 1日 点滴療法特別ワークショップ
「現場から学ぶ点滴療法の“技（わざ）”」
- 10月 12日 国際オーソモレキュラー医学会 市民講演
「子供の心とむきあう講演会」
13日 国際オーソモレキュラー医学会 公式教育セミナー
「栄養による治療 A to Z」
- 11月 10日 高濃度ビタミンC点滴療法認定医 / ベーシックセミナー
23日 歯科医実技講習会
- 12月 8日 アドバンスセミナー



1月 ベーシックセミナー



6月 抗加齢医学会出展



9月 ワークショップ



11月 歯科医実技講習会

歯科部門発足

安全で効果的な点滴療法、栄養療法を歯科医師の先生を通して国民に提供したいという願いから、歯科医師部門を発足致しました。点滴療法とそのベースとなる栄養療法、そして医科歯科連携を図り全国規模の医科歯科ネットワークを創ることを目指しています。2013年度は歯科医師向けセミナー、基本実技講習会を通して貴重なご意見を伺うことができました。

実技講習会



点滴療法研究会 5周年記念スペシャルセミナー

海外より点滴療法のエキスパート3名を招き、セミナーを開催しました。高濃度ビタミン点滴療法の聖地リオルダクリニックのロナルド・ハニハイキ先生、幹細胞治療の研究で著名なニール・リオルダン先生、高濃度ビタミン点滴の研究で著名なマギル大学のジョン・ホッファー教授より最先端のビタミン点滴療法・幹細胞治療について解説頂きました。



最先端情報が発表されました



特別講師ご夫妻

抗加齢医学会 出展 ランチョンセミナーにて講演

6月28日(金)～30日(日)の3日間、パシフィコ横浜にて第13回日本抗加齢医学会総会が開催されました。研究会も出展し、柳澤会長は上符正志先生の座長でランチョンセミナーにて「自由診療導入クリニックにおける抗加齢医学の事例紹介」と題し「サプリメントを活用した栄養療法」「遅延型アレルギー検査と除去食」「ビタミン点滴療法の具体的な処方」について講演しました。



座長：上符先生



満席となり盛会でした

特別セミナー ～点滴療法研究会が考えるアンチエイジング～

日本で有数の美容のエキスパートである3名の講師をお招きし、特別セミナー「点滴療法研究会が考えるアンチエイジング」を開催しました。古山登隆先生には美容皮膚科からのアプローチ、辻直樹先生には男性をターゲットとしたアンチエイジング、上符正志先生には遅延型アレルギーとアンチエイジングの密接な関わりについてご講演いただきました。



上符 正志先生



辻 直樹先生



古山 登隆先生

特別ワークショップ ～現場から学ぶ点滴療法の“技(わざ)”～

今年で2回目の開催となる点滴療法研究会ワークショップでは、11名のエキスパートによる新しい発表がありました。高濃度ビタミン点滴療法については各クリニックのデータや統計が発表され、点滴療法に限らずクリニックでできる最先端医療、体に優しい医療が多く紹介されました。セミナー後の懇親会では発表者と参加者が活発な意見を交わしました。



当日のブースの様子



懇親会

ISOM 国際オーソモレキュラー医学会 in カナダ

国際オーソモレキュラー医学会ツアー

点滴療法研究会では、柳澤会長が殿堂入りされた2012年4月より毎年日本からの公式ツアーを企画しています。2013年は、柳澤会長が国際オーソモレキュラー医学会会長に就任され2回目の参加となりました。第42回国際オーソモレキュラー医学会は4月26日から3日間、カナダのトロント市街中心の由緒あるホテル、フェアモント・ローヤルヨークで開催、世界各国から約200人の医師・歯科医師・栄養士などが出席し、日本からは約30人の医師・歯科医師とご家族が出席しました。

■主な講演内容

リオルダンクリニックのロナルド・ハニハイキ先生は「血管内皮前駆細胞（EPC）と血管の健康」と題する講演をしました。骨髄由来幹細胞から分化したEPCの血流中の数は、脳梗塞・心臓病・勃起不全・認知障害などで減少しており、血管の健康を維持するために正常なEPCを保つことが重要であること、そして健康なライフスタイルとビタミンDの摂取が血中EPCを増加させることをご講演されました。

ビタミンCの研究で著名なトーマス・レヴィ先生は、根管治療をした歯の潜在性細菌感染と冠動脈疾患、がんとの関連性を指摘しました。特に印象に残ったのが、腫瘍は根管治療を受けていた側に多かったという事実を述べたことでした。中でも、乳がん300例の97%が根管治療を受けていたのには衝撃でした。

ジョン・ホッファー先生（マギル大学教授）は、緊急入院する患者さんの血中ビタミンCが低下していることを指摘、無作為二重盲検法による研究で、ビタミンC 1gを毎日投与することで気分と苦痛が有意に改善すると述べました。

ポー・ジョンソン先生（スウェーデン・カロリンスカ研究所）は、うつ病と双極性障害に対する各種ビタミンの効果について、エビデンスを並べてご講演されました。



カーター事務局長、阿部先生と

■学会期間中、マスターズクラブ新ボードメンバーとして、ISOM 医学会前会長であるオランダのガート・E・シュートメーカー先生、ISOM 医学ニュース編集長のアンドリュー・W・ソウル先生（アメリカ）、ステムセル研究所所長のニール・リオルダン先生（アメリカ）、台湾・オーソモレキュラー医学会の劉輝雄先生、メキシコ・オーソモレキュラー医学会会長のロベルト・オルティス先生の5人の先生が就任されました。国際的に活躍されている著名な科学者のサポートをいただけることは大変光栄な事でした。

■点滴療法研究会のボードメンバーの阿部博幸先生（アベ腫瘍内科クリニック理事長）が、日本における精神医学分野でのオーソモレキュラー医学の普及と日本オーソモレキュラー医学会の設立に貢献した功績が称えられ殿堂入りをされました。

～阿部先生のメッセージをご紹介します～

「人間の健康の原点である栄養が今見直されています。人体の機能を最大限に発揮させるために、必要かつ十分な栄養の補給が不可欠です。この考え方は病気の予防や治療にも適用されます。近年進んだ分子栄養学の視点から、オーソモレキュラー医学が注目されているのは言うまでもありません。がん治療に高濃度ビタミンC点滴治療が用いられるようになって久しいが、免疫治療、特に樹状細胞ワクチンとの組み合わせが成果を上げています。「Hall of Fame」の式典に先んじて私が行った「Personalized Medicine & Cancer Treatment」について多数の方々から賞賛の言葉をいただき、意を強くしました。これまでの皆様のご支援を心より感謝申し上げます。」



阿部先生が
殿堂入りされました



代々の殿堂入りが記された楯

■国際オーソモレキュラー医学会への出席は研究会が万全のサポートをします。国際オーソモレキュラー医学会へ日本から出席される先生が多い場合、学会で配布されるシラバスの日本語訳を作製します。海外の国際学会は敷居が高いと言う先生にも十分に学会を堪能いただけます。

また現地では、柳澤会長が日本から参加される皆様をエスコートします。

学会開催中は、オーソモレキュラー医学に準じた昼食が用意され、賑やかに円卓を囲みます。夜は、点滴療法研究会ウエルカムパーティーを始め、国際オーソモレキュラー医学会主催の公式晩餐会、殿堂入り式典などの行事が行われ、各国の出席者との交流の場が生まれる、とても有意義な学会です。過去に参加された先生は、帰国後も友好を深められ、プライベートの勉強会を実施されるなど、この学会を機に積極的な輪が広がっています。

2013年は、点滴療法研究会の事務局長の上符正志先生も参加されました。パーティー終了後も連夜遅くまで、日本から参加された先生とお話を花を咲かせ、盛り上がりっぱなしでした。

■第43回国際オーソモレキュラー医学会は、2014年4月25日～27日カナダ・バンクーバーにて開催します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



10/12 国際オーソモレキュラー医学会市民講演

国際オーソモレキュラー医学会 (ISOM) に所属する点滴療法研究会、日本オーソモレキュラー医学会、オーソモレキュラー.jp の共催により海外では初めて日本で市民講演が開催されました。当日は、一般の方以外にも医師・歯科医師・栄養士も参加され、120名を超える出席者を迎えました。国際オーソモレキュラー医学会会長である柳澤会長のあいさつから始まり、子供の心と向き合おうとする参加者が非常に多く見受けられ、始まりから熱心に耳を傾けられていました。最初の講演は新宿溝口クリニック院長の溝口先生の「こどもの“困った”は食事でよくなる」でした。「子供のメンタルヘルスは薬による治療ではなく、普段の食事に気を遣い、栄養によって改善できる」ということを一般の方に分かりやすく解説、頷きやペンを走る音が良く聞こえてくる講演でした。



続いて、アメリカよりお越しいただいた統合医療分野の先駆者であるジェームズ・M・グリーンブラッド先生による講演「子どもの情緒・行動障害を理解する～遺伝、環境物質、栄養欠乏の影響」が行われました。一般の方にとってあまり馴染みがない逐次通訳でしたが、難しい科学的なテーマであることを感じさせない、問いかけるような話し方がとても印象的なわかりやすい講演でした。また、グリーンブラッド先生のウイットに富んだお話と素晴らしい通訳で、会場はとてもよい雰囲気でした。

講演の休憩中は、各共催のブースには人が溢れていました。特に溝口先生が出版された本のブースはたくさんの人が集まり、熱心にご覧になられていました。今回の2日間に渡るセミナーの様子は ISOM 本部 (カナダ) より発行される分子栄養医学誌でも掲載、事務局より講演の成功を祝福、感謝の言葉が添えられました。

10/13 国際オーソモレキュラー医学会公式教育セミナー

「栄養による治療 A to Z」をテーマに開催、100人を超える出席者は日本だけでなく、香港・中国・台湾からも来日し、国際色豊かな1日でした。

ISOM 事務局長スティーブン・カーター氏の挨拶で開会、柳澤会長は「オーソモレキュラー医学による最新がん治療」について講演。アイリーン・パーフォード＝メイソン先生は、個々の人間の免疫力は栄養状態を繊細に反映しているとして「オーソモレキュラー療法による風邪・インフルエンザの治療」についてご講演。また、不適切な食事と一般的な栄養素の欠乏が慢性疲労の発症にどのように関わるかについての解説として「慢性疲労のための食事療法とサプリメントの使い方」を講演されました。

統合医療分野の先駆者であるジェームズ・グリーンブラッド先生の講演は「統合医療におけるうつ病～栄養療法を用いた治療戦略」でした。ランチョンセミナーでは、一般診療に分子整合栄養医学的アプローチを応用し、治療が困難な疾患に対する栄養療法を実践する溝口徹先生 (新宿溝口クリニック 院長) による「脳腸相関 - 腸から巡る脳のはなし」の講演でした。

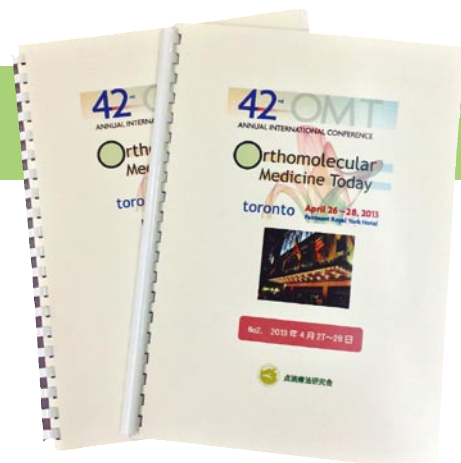
セミナー終了後に懇親会が開催され、盛会のうちに終了いたしました。このセミナー参加者より、75名の ISOM 新会員が誕生しました。

【国際オーソモレキュラー医学会とは】45年の歴史ある学会で、カナダのトロントに本部があります。栄養療法で病気の治療や予防をする医学会として先駆的であり、17カ国のオーソモレキュラー医学会が加盟しています。人々の健康維持、疾病治療・予防に効果的なオーソモレキュラー (分子整合) 栄養療法を実践する医師・歯科医師・栄養士などを育成し、一般への啓蒙活動を広く行っています。2012年、日本の柳澤厚生氏 (点滴療法研究会会長) が国際オーソモレキュラー医学会第4代会長に就任しました。

【オーソモレキュラー医学とは】「体の中に自然に存在するビタミン・ミネラル・アミノ酸などを分子レベルで最適な量を投与して病気の予防と治療をする医学」です。二度のノーベル賞を受賞したアメリカのライナス・ポーリング博士が1968年に科学誌サイエンスで提唱しました。オーソ (ortho) は「正しい、矯正、修正」などの意味があり、モレキュラー (molecular) は「分子」の形容詞です。このためオーソモレキュラー医学は日本語で「分子整合医学」、「分子矯正医学」、「正常分子医学」とも呼ばれています。



点滴療法研究会出版リスト (2013年)



●2013年2月24日開催スペシャルセミナー DVD (テキスト付)

～ハニハイキ先生、ホッファー先生、リオルダン先生から学ぶ～
高濃度ビタミンC点滴療法と幹細胞栄養療法

- (1) 高濃度ビタミンC点滴療法、炎症、がんの微小細胞環境
～補助的IVC療法はがん患者を救う～
ロナルド・ハニハイキ (リオルダンクリニック 所長 アメリカ)
- (2) がん補助療法としてのビタミンCの臨床試験
ジョン・ホッファー (マギル大学 内科教授 カナダ)
- (3) 幹細胞医療における栄養学的アプローチ
～ステム・シーニュートリション～
ニール・リオルダン (ステムセル研究所 所長 アメリカ)
- (4) 血管内皮前駆細胞と血管の健康
～リオルダンクリニックにおける研究～
ロナルド・ハニハイキ (リオルダンクリニック 所長 アメリカ)
- (5) 治癒しない創傷としての癌～新旧のパラダイム～
ニール・リオルダン (ステムセル研究所 所長 アメリカ)

- (2) 「点滴療法に導入したい美容医療 ②」
古山 登隆 (医療法人社団喜美会 自由が丘クリニック 理事長)
- (3) 「当院で行う男のアンチエイジング治療」
辻 直樹 (医療法人社団医献会 辻クリニック 院長)
- (4) 「遅発型フードアレルギー検査と実践」
上符 正志 (銀座上符メディカルクリニック 院長)

●2013年3月24日開催特別セミナー DVD (テキスト付)

「一歩先を行く！今すぐ導入したい検査と治療」

- (1) 総合ホルモン補充療法の検査と臨床療法
上符 正志 (銀座上符メディカルクリニック 院長)
- (2) キレーション療法入門とアンチエイジングの最先端検査
上符 正志 (銀座上符メディカルクリニック 院長)
- (3) 高濃度ビタミンC点滴療法と動脈硬化に対するキレーション
療法の最新情報
澤登 雅一 (三番町ごきげんクリニック院長・東海大学血液腫瘍
内科非常勤講師)
- (4) 遅発型フードアレルギー 総論
澤登 雅一 (三番町ごきげんクリニック院長・東海大学血液腫瘍
内科非常勤講師)

●2013年9月1日開催第2回特別ワークショップテキスト 現場から学ぶ点滴療法の“技(わざ)”

- (1) 「安全、安定、安心な腹水治療への挑戦」
尾崎 道郎 (ソフィアイーストクリニック日本橋 院長)
- (2) 「ガン疾患における蛋白質栄養の重要性」
桑島 靖子 (医療法人社団桑島内科医院 院長)
- (3) 「がん治療における高濃度ビタミンC点滴療法の実際
～5年間の臨床データから～」
青木 晃 (横浜クリニック 院長)
- (4) 「当院でのIVC症例～中絶症例について」
長谷川 時生 (あきたすてらクリニック 院長)
- (5) 「日本初のがん遺伝子診断に基づく遺伝子免疫治療」
秋山 真一郎 (UDX ヒラハタクリニック 院長)
- (6) 「水素療法について - 水素注射、水素サプリメント -」
森 吉臣 (赤坂AAクリニック 院長)
- (7) 「サプリメント・点滴療法がうまくいくコツ」
平良 茂 (ハートフルクリニック 院長)
- (8) 「当院でおこなっている栄養療法 / 真の歯科・医科連携とは」
有馬 よう子 (アステック歯科栄養療法カウンセラー)
- (9) 「治療適応可否の大前提～G6PD 定量検査の実際」
菅野 渉平 (IVC 分析センター 所長)
- (10) 「マイラン社の概要と点滴用ビタミンC 製剤の品質管理への
取り組み」
Sridhar Subramanian 氏 (Mylan Pharmaceuticals 社)
- (11) 「先進的開業医の日常診療のルーチンワーク」
松山 淳 (松山医院 / 群馬統合医療センター 院長)

●2013年4月26日～4月28日開催 in トロント 第42回 国際オーソモレキュラー医学会日本語版テキスト

- (1) 故 Abram Hoffer 記念講演 「医療のルネッサンス」
Jeff Kotulskiy, D.O.
- (2) 故 Evan Shute 記念講演 「血管内皮前駆細胞と血管の健康」
Ron Hunninghake, M.D.
- (3) 「冠動脈疾患と癌」
Thomas E. Levy, M.D., J.D.
- (4) 「個別化医療とがん治療」
Hiroyuki Abe, M.D.
- (5) 「ビタミンC点滴療法: 全身飽和作用」
Michael J. Gonzalez, DSc, Ph.D.
- (6) 「ゴンザレス療法: 症例報告」
Nicholas Gonzalez, M.D.
- (7) 「アレルギーおよびアトピー性疾患に対する分子矯正医学的
アプローチ」
Kara Fitzgerald, N.D.
- (8) 「急性期入院患者の気分と苦痛に対する ビタミンC および
ビタミンD 補給の効果」
John Hoffer, M.D., Ph.D.
- (9) 「うつ病と双極性障害のオーソモレキュラー治療」
Bo H. Jonsson, M.D., Ph.D.

●2013年10月13日開催 ISOM in Japan セミナー DVD (テキスト付) 国際オーソモレキュラー医学会公式教育セミナー 「栄養による治療 A to Z」

- (1) 「オーソモレキュラー医学による最新がん治療」
柳澤 厚生 (国際オーソモレキュラー医学会 会長)
- (2) 「オーソモレキュラー療法による風邪・インフルエンザの治療」
アイリーン・バーフォード＝メイソン
(トロント総合病院コンナッハ頭頸がん研究所部長 カナダ)
- (3) ランチョンセミナー 「腸腸関一腸から巡る脳のはなし」
溝口 徹 (新宿溝口クリニック 院長)
- (4) 「統合医療におけるうつ病～栄養療法を用いた治療戦略」
ジェームズ・グリーンブラット
(ウォルデン行動医療病院摂食障害部門部長 アメリカ)
- (5) 「慢性疲労のための食事療法とサプリメントの使い方」
アイリーン・バーフォード＝メイソン
(元トロント総合病院コンナッハ頭頸がん研究所部長カナダ)

●2013年7月28日開催特別セミナー DVD (テキスト付)

「点滴療法研究会が考えるアンチエイジング」
～専門医から歯科医師まで～

- (1) 「点滴療法に導入したい美容医療 ①」
古山 登隆 (医療法人社団喜美会 自由が丘クリニック 理事長)

点滴療法研究会実践セミナー 2014 年 年間予定

マスターズクラブ主催の点滴療法実践セミナーは、安全かつ効果的な点滴処方の方から料金の設定まで具体的であり、講習を受けた翌日から外来で点滴療法を開始できる内容です。また、幅広い分野の点滴療法の基本から最新のトピックスまで学べるため、初心者の方から実戦経験が豊富な熟練者まで満足いただけます。

1月12日(日) スピックサロン・メディカルクリニック
(神奈川県鎌倉市)
点滴療法の基本実技講習会(入門編)「もうはずさない!血管確保の実際」

1月19日(日) ベルサール三田(東京)
New ベーシックセミナー

3月21日(金) ベルサール三田(東京)
New ベーシックセミナー、キレーションセミナー
「ACAM プロトコルによる米国式キレーション療法の実際」
キレーション認定医試験

3月22日(土) ベルサール三田(東京)
New アドバンスセミナー

3月23日(日) ベルサール八重洲(東京)

【特別セミナー】海外講師招聘
トーマス・レヴィ先生(米国)

- ・「高濃度ビタミンC点滴療法の効果を高める方法」
- ・「歯から始まる致命的全身疾患」
- 感染根管は心臓病やガンの原因となりうる
- ・「カルシウムのサプリメントが死を招く?」その他

4月6日(日) スピックサロン・メディカルクリニック
(神奈川県鎌倉市)
点滴療法の基本実技講習会(入門編)「もうはずさない!血管確保の実際」

7月20日(日) ベルサール三田(東京)
New ベーシックセミナー

7月21日(月) ベルサール三田(東京)

特別セミナー
8月3日(日) スピックサロン・メディカルクリニック
(神奈川県鎌倉市)

点滴療法の基本実技講習会(入門編)「もうはずさない!血管確保の実際」

11月22日(土) ベルサール三田(東京)
New ベーシックセミナー

11月23日(日) ベルサール三田(東京)

New アドバンスセミナー

11月23日(日) ベルサール三田(東京)

New アドバンスセミナー
【会員限定】高濃度ビタミンC点滴療法認定医講習会
【会員限定】高濃度ビタミンC点滴療法認定医試験

11月24日(月) ベルサール三田(東京)

特別セミナー
12月7日(日) スピックサロン・メディカルクリニック
(神奈川県鎌倉市)

点滴療法の基本実技講習会(入門編)「もうはずさない!血管確保の実際」



取扱：点滴療法研究会推奨サプリメント

●リボスフェリック・ビタミンC ●ステム・C・ニュートリョン

株式会社スピック 医療事業部

神奈川県鎌倉市小町2-12-30 BMビル4階 Tel. 0467-23-8161

リボスフェリック・
ビタミンC



ステム・C・ニュートリョン

IVC-Series Anti Aging & Chelation

点滴療法の効果をより高めるために生まれた
点滴療法研究会推奨サプリメントシリーズ

医療機関で使用するにふさわしい安全で高品質、高配合のサプリメントをご提供します。

お問い合わせ 西本貿易株式会社ナチュメディカ事業部

〒105-0013 東京都港区浜松町1-30-5 浜松町スクエア2階 ☎ 0120-814-585 受付9:00~17:00(土・日・祝日、年末年始を除く)



NATUMEDICA

MSS から医師向け栄養療法講座のお知らせ

栄養療法をご検討中の先生方へお勧めします

すべての医師の皆様へ

2014年 **2月23日(日)** AP品川
13:00~17:00

ベーシックセミナー

4時間で学ぶ栄養療法のエッセンス

すべての科で可能な
栄養アプローチのスタートアップ
(オーソモレキュラー療法)

【お問い合わせ先】株式会社MSS 〒160-0022 東京都新宿区新宿3-11-6 エクレ新宿401
Tel. 03-5366-0208 Fax. 03-5366-0209 <http://mssco.jp/>

最新のセミナー情報は弊社HPをご覧ください。

点滴療法研究会 2013年 年次報告書

発行者：柳澤厚生

編集：井出由美・小林明頼

発行：点滴療法研究会事務局 有限会社メディカルリサーチ 21
〒108-0072 東京都港区白金 3-17-19 エオラス白金 701
TEL 03-6277-3318 FAX 03-6277-4004